校友時報

昭和42年11月25日
編集人兼発行所
秋田県能代市追分町4番26号
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所　大勝堂印刷所

不安な生徒会

会長に石山明義君

選挙管理委員会が会則を破って正副会長選挙を十月に行なった。投票予定日になっても立候補者が出ないため、委員会は各クラスにおいて無理な候補者選出を行ない、本番になってから辞退者が続出し、波乱を呼んだ。

上が会長、下が副会長

十月二日に行なわれるはずだった正副会長選挙は、立候補者が出ないため、委員会は候補者を各クラスで選出する事に切りかえ、正副会長決定を十三日まで延期した。十一日までに届け出のあった候補者は、同日出馬演説を行なった。

ところが前期生徒会で功労があり、会長有力と見られた大淵君、金子君、浅野君など各候補は次々と辞退の声明を発表し、後期生徒会運営に一抹の不安を与えた。これらの候補は前から出馬する意向のない事をほのめかしており、委員会の有無を言わせない選出に屈してイヤイヤ出馬したものである。

その後正副会長候補者を会則に従って各々三名にしぼる投票が行なわれ、会長候補に細谷君、浅野君、石山君、副会長候補に平川君、下坂君、三浦君がそれぞれ選出された。十三日は正副会長候補者各々三名によって争われ、副会長に平川君が次点者に大差をつけて当選した。しかし会長選挙には過半数の票を得た候補がおらず、上位二名が十六日に決戦投票を受ける事になり、結局十六日に、石山君が浅野君に小差で勝ち会長に決定した。

			得票数
会長	当選	石山明義	四七一
	次点	浅野秀剛	四二六
副会長	当選	平川幸雄	三七一
	次点	下坂節男	一五二

石山会長の話

過去、現在において、生徒会活動が「不振だ」、「盛り上がりがない」と言われるのは、会員一人一人が生徒会で何をなせばよいのか自覚していないからだと思う。会員一、一二八人が団結して、生徒会を動かしたら、きっとすばらしい活動が出来ると思う。要望、忠告、不満があったら、遠慮なく申し出てもらいたい。

笠井選挙管理委員長の話

正副会長選挙を九月中に行なわなければいけない会則があるのは知っていた。九月の授業時間と、十月のHRをとりかえてもやろうとしたが、学校側の都合もあり、出来なかった。

学生のみせ
学用品・事務用品
キムラヤ
はたまち　2－5535

部　説

会則改正は必要？

今年の生徒会役員選挙ほど荒れたのも珍らしいだろう。

十月七日の生徒会正副会長の立ち合い演説会にはじまった一連の選挙は、一ケ月半という長期間を要して、十一月二十日の生徒総会の正副議長、会計監査委員の信任投票をもって、ようやく終わりを告げた。しかし、この約一ケ月半の間に、生徒全員の投票によって選ばれた役員は、生徒会正副会長各一名、生徒総会正副議長各一名、会計監査委員三名の計七名にすぎない。もちろん、中に中間テストや修学旅行などをはさんだこともあるが、果たしてこれだけの人選をするのに、それだけの期間が必要であったろうか。また、現在の選挙のあり方や、それを定めている生徒会会則、選挙に関する規則そして選挙にのぞむ生徒一人一人の態度などに問題があるのではないだろうか。これらの観点から、今度の選挙をふり返ってみよう。

まず十月二日の生徒会正副会長の投票予定日には、立候補者が一人もいなかった。これが能代高校生徒会の現状なのであろうか。もしも、そうであるとするならば、生徒会というものは、無用に等しい存在である。

そこで、会則に従って、各クラスから一名ずつ選出し、その中から三名を選び、さらに投票を行なって一名を選ぶのであるが、その際、最高点者が過半数に満たず、決戦投票により、ようやく決まった。

しかし、ここにおいて、「各HRより一名ずつ選出する」という選挙に関する規定の条文には、いささか無理がある。そしてその選ばれた者には、拒否権がないのでどうしても演壇には立たなくてはならない。もしも、本当にクラスの推薦を受けて立候補したのであるならば、演壇に立ってから「私はその意志が全くありません」など言えるだろうか。適任者のいないクラスでも、無理に選出しようとするために、このような結果が生ずるのである。また、それを選ぶ生徒にも一因がある。多少その方面に明かるいからと言って、全くその意志のないものを無理やり推すよりも、少しでもやる気のある者を選ぶべきである。

結局、現在の時点では、生徒一人一人の生徒会に対する無関心さが、いろいろな問題をひきおこしていると言えよう。投票するにしても、白紙で出したり、全部を×印で消したり、全く関係のないことを書いたりする。生徒がこのような態度を改めて、もっとまじめにとり組まないかぎり、生徒会の大きな発展は望めないだろう。

しかし、それと同時に、公布以来、十年以上もたっている生徒会会則（昭和三十一年公布）や諸規定には、現在の情勢にはそぐわない点も多々あり、そろそろ、会則改正の必要性を考慮してもよい時期ではないだろうか。

〝巨濤〞編集始まる

巨濤編集委員会が十一月十四日生徒会室で初会合が開かれ、正式に発足した。十月下旬より編集委員を募集したが、なかなかまとまらず石山生徒会長の努力で茂呂忠良君（二E）を編集長とし、一応陣容が整備された。内容は昨年号を参考として、その中に少しでも新鮮味を盛り込もうとする努力が見られる。昨年初めて企画された先生たちの寄せ書き帳は予算の関係もあるが好評で今年も継続することが決定した。また各クラブの一年間の活動反省報告記は前期各部長に執筆依頼され十二月二日まで原稿が集められる。各クラブとも一年間の総決算を限られたスペースであるが生徒会員に報告することが期待される。新しい企画としては来年度への橋渡しとして一年生の編集部員で本年度の能代高校生徒会活動を基盤としての来年度の本校生徒会はこうあるべきとのビジョンが提案される。また卒業生一人一人の名言集は、名言であって、迷言であっては掲載せぬことを前提として三年生の能代高校三年間で培かった教養を土台とした名言を期待し、協力を求めることとなった。また三年生にとって思い出多い高柳前校長、小田島前教頭両先生より本校在任中の思い出と近況報告をいただくことが決定した。編集委員一同は広く全校生徒の巨濤に対する希望、協力を求めている。

総会正副議長決定す

去る十月に行なわれた総会正副議長、会計監査委員三名の信任投票は、会計監査委員に浅野秀剛君と木島幹厚君が信任となったほかは、残り三名が不信任となった。

その後、総会議長のポストに候補者がいなく、長い間信任投票が延期されていた。結局総会議長を大塚君が引き受ける事になり、今月二十日に信任投票が行なわれ、議長に大塚健三君、副議長に泉竜英君が決定した。しかし会計監査委員一名は再度不信任となった。

時　評

交通事故に思う

最近交通事故がにわかにふえ「非常事態宣言」という最悪の状態にたち至っている。事故があるからには運転者と歩行者のどちらかに時には双方に、道路交通法違反があったはずである。

私も土曜日は帰りの汽車時間が不便なので、バイクか自動車を利用することが多いが国道七号線を制限速度ぎりぎりで走っていて、ふと考えることがある。前から来る大型のダンプ、センターラインを越えてこないだろうか。後から追ってくる砂利トラの運ちゃん、居ねむり運転ではないだろうか。酒を飲んではいないだろうか。右側を自転車でくる人、左側へよる気があるのかな。こんな気持が胸にわくと急に怖くなってくる。時速五十キロ、六十キロのスピードで絶えず車が交差して走っている。お互いに交通のルールに従って運転するものと暗黙の信頼があるのである。もしこの信頼を裏切る者があれば必然的に事故が発生する。

このことは別に交通に限ったことではない。理髪店でひげをそってもらう、カミソリで顔を切られはしないだろうか。食堂で食事をする、毒が入っていないだろうか、などと心配していたのでは一日として安閑として生活していられないだろう。すべてが自給自足であった大昔ならともかく、高度に分業化した現代社会にあっては、お互いに信じあう事によってはじめて生活ができるというものだろう。

こう考えてくると、我々ひとりひとりがお互いに信頼を裏ぎることのないように行動すれば、すべて世の中は円満に事故もなくうまくいくはずであるが、現実はなかなかそうではない。黄色い小旗を振って横断歩道を渡る児童の列にトラックが突込む。バスや列車の脱線や衝突の記事が、毎日のように新聞やテレビをにぎわしている。経営者側と労働組合は年中にらみ合っているし、ベトナムや中印国境では人殺しが行なわれている。世界の大国は軍備拡張に余念がない。どこか狂っている。何かが欠けている。宇宙全体から見れば砂浜の一粒にすぎない小さな地球の上で、なぜささやかな平和が保たれないのだろうか。

伊藤鉄美先生（英語科）

就職状況

今年度の就職者は、九月三十日現在二十二名が決定した。昨年度同様県外希望者が多く、特に東京はじめ大都市に集中する傾向が依然として強い。

また県内では金融関係が多い。就職先と就職者は次の通り。

県内では秋田銀行一名、羽後銀行、秋木商事が各々二名。県外では株式会社丸井六名、大昭和製紙西部鉄道、丸興が各々二名、農林中央金庫、大丸東京店。石丸電気日本住宅公団、三菱重工東京製作所が各々一名となっている。

三点

▼先頃、東大慶大に在学中の二人の学生が金庫破り事件を引き起こして世間を騒がせた。共に同じ高校の出身で仲がよかったそうだ。▼この学生たちの行動はそう悪質な事件とまではゆかないにしてもその盗んだ動機がつまらない。二人のうちの一人が金に困った。それで他の一人が就職の決まった会社から金庫を盗んだというものだ。▼大学まで進んだ彼らがなぜ金に困った時、〝盗みをはたらく〟ことだけしか考えなかったのだろうか。学生らしいやり方でアルバイトとかなんかをすることが彼らの頭に浮かばなかったろうか。日数がかかっても我慢し、二人で力を合わせて熱心に働けばやがては金はつくれたはずであろう。またそれが真の友情というものではなかろうか。彼らはアルバイトもできぬようなぐうたらな生活をし、そのような人間になってしまったのだろうか。▼結局二人は金庫をあけることができないでいるうちに警官につかまった。そのとき彼らは「なにも中の金を盗んで使ったわけではないんだからもとに戻せばそれでいいんだろう」と言ったそうだ。なぜかくも有名な大学の学生であるのにこのような事件が起こりうるのだろうか。▼この事件に関しては当然高校のときの生活態度にも関係をもってくる。予備校化に伴う社会への無関心、そこからおのずと生まれる社会的常識の欠如、クラブ活動にも参加せずに家に帰ると勉強のほかはテレビをみることぐらい、ただ学力があって有名大学へ進むのはよいが、それでとんでもないことをしでかすのであろう。▼最近の日本の大学は無計画のうちに乱造され、たくさんの大学が出来たが、そのリーダー格ともいえる有名大学生が世の常識をわきまえない事件を起こすのである。大学側にいわせれば彼らはごく一部だというかもしれない。だが日本の教育制度のどこかに歯車のうまくかみ合わないところがあるようだ。

服地の専門店
オーダーの専門店
服地のセイワ
柳町
T 2－4151

ポンプと
金物の店
小杉山金物店
T 2－4178

秋晴れの日は
みんなでスポーツを
スポーツ洋品の
能代スポーツ
柳町　T 2－4613

枯葉が散る時
ギターはあまくささやく
〝ギターなら「アサヒ」だ〞と……
楽器店
アサヒ
畠町
T 2－2275

季節をとらえるカメラ
畠町　T 2－2946
三羊堂

明治…牛乳…コーヒー牛乳
菅原牛乳
出戸沼　T 2－3851